

令和8年度栃木県林業センター試験研究課題一覧表

番号	区分	試験研究課題名	予算区分	研究期間	研究の概要
1	林業経営	経済型林業に対応した効率的な造林保育に関する研究	県単	R8-12	造林保育作業の低コスト化に向けた研究を行う。 ①ドローンを活用した薬剤散布による雑草除去効果の検証 ②強度間伐地における更新手法の検証 ③次世代苗木の現地適応試験
2	森林造成	林業用種苗の安定供給・低コスト等に関する研究	県単	R8-12	林業用種苗の安定供給や低コスト化のため、採種圃管理や苗木生産について新たな方法に取組み改善を目指す。 ①直挿しコンテナ苗木生産による採種圃の補植の検討 ②採種圃管理費の低コスト化に向けたジベレリン濃度の検証 ③汚泥肥料の有効活用のためのコンテナ苗培地試験 ④花粉飛散防止剤の農薬登録に係る共同試験
3	野生生物	循環型林業に対応した効率的な獣害防除に関する研究	国庫 県単	R8-12	拡大しつつある再造林地において、的確なシカ被害対策を実施するための手法を開発する。 ①下層植生衰退度やシカ密度指標を用いた被害発生リスク評価とシカ管理目標の検討 ②大苗無下刈植栽や恒久的ツリーシェルターによる食害軽減効果や施業省力効果の検討 ③造林地付近でのシカ捕獲による被害軽減効果の検討
4	野生生物	野生動物の効果的捕獲技術に関する研究	国庫 県単	R8-12	捕獲強化が求められているシカについて、ICTを活用したスマート捕獲技術や、誘引餌を用いた効率的捕獲手法など新たな技術の実証を行う。 ①ドロップネットを活用したわなによる捕獲効率化の検討 ②誘導柵を用いた季節移動個体の待ち受け狙撃の試行 ③塩水による誘引効果の検証
5	特用林産	新規栽培きのこの等の特用林産物生産技術の開発	国庫 等	R8-12	気候変動や放射能汚染の影響を受けない新たな資材・技術を用い、多品目化する需要に対応できる生産技術を開発・技術移転を行う。 (1)ハタケシメジ等食用きのこの栽培技術の改良 ①新規登録品種の技術移転 ②オガコ等ハタケシメジ栽培用資材の改良と適合系統の探索 ③放射能汚染を考慮した簡易パイプハウスを用いる棚栽培技術の開発 (2)特用林産資源の活用と栽培技術の開発 ①未利用の野生食用きのこの資源の収集と培養特性の解明 ②新たな資材等を用いる食用きのこの純粋培養環境での人工栽培技術の体系化 ③高温障害の影響が顕著な作目の耐高温生産技術の開発
6	特用林産	特用林産物の放射性物質対策と将来予測	国庫 等	R8-12	放射能汚染を受けた原木林の利用再開を図り、伐採更新等の効果を検証し将来予測技術を確立する。 (1)県内産原木の利用再開と原木林再生 ①新たな移行係数・指標値に対応した原木林使用適否判定方法の検討 ②県内広葉樹林の利用適否に関する将来予測技術の開発 (2)放射性物質汚染に強い特用林産物生産技術の開発 ①放射性物質汚染を避ける原木栽培シイタケ生産技術の改良 ②直売所で有利販売される原木栽培きのこの等の出荷制限作目の栽培技術の改良
7	木材利用	中大径材から木取りした心去り平角・正角等の強度性能試験	県単	R8-12	森林資源が充実し収穫期を迎えた今、供給増加が見込まれる大断面の大径材では、これまでの「心持ち」だけでなく「心去り」の木取りも可能となる。しかし、心去り材の品質・強度性能等についての研究成果やデータ集積は少ない。 そこで、中大径材の様々な心去りの木取り(正角4丁取り・平角2丁取りなど)について各種強度試験等を実施し、製品としての生産性・収益性・付加価値などを見据えた実用的な試験データを蓄積する。
8	木材利用	新たな造林樹種の各種強度性能試験	県単	R8-12	戦後植林された人工針葉樹林が成熟期を迎え、皆伐・更新が進む中、収益性のある新たな林業として、短伐期での収穫が見込める早生樹が検討され始めている。 そこで、構造材や造作材としての活用が期待できる樹種を見出すため、早生樹や広葉樹など従前の造林樹種(スギ・ヒノキ)以外の樹種について、各種強度性能試験等により品質・性能を明らかにする。
9	木材利用	中大径材から木取りした心去り平・柱角等の乾燥試験	県単	R8-12	今後は中大径材の供給増加が見込まれ、大断面の大径材では心持ちに加え心去りの木取りも可能となるが、心去り材の乾燥スケジュールについては研究事例やデータの蓄積が未整備である。 そこで、心去り材の乾燥方法(中温・高温等)が形状・含水率等の材質や、強度性能に及ぼす影響を明らかにし、製品としての生産性・収益性・付加価値などを見据えた実用的な試験データを蓄積する。
10	木材利用	非住宅中大規模建築物に活用できるマッシュホルツ等の性能に関する研究	県単	R8-12	中大規模建築物への木材利用が進む中、品質・強度性能が優れた栃木県産の無垢材の特徴を活かしたNLT等マッシュホルツ(梁桁・壁・接合部)の強度性能試験し、県産材の新たな用途への利用拡大に寄与する研究データを収集・分析する。
11	木材利用	大径材の特長を活かした新製品の開発	県単	R8-12	今後中大径材の供給増加が見込まれることから、意欲のある企業・大学と連携し、大断面・心去り材や側取り材の木取りの活用など、生産性・収益性・付加価値などを見据えた様々な新製品を開発し実用化を目指す。